

令和6年度 「豊かなむらづくり全国表彰事業」東北ブロック受賞事例

東北農政局長賞

～持続可能な農村産業の構築よそ者、若者、「高齢者」が地域を救う～

○団体名 ゆうげんがいしゃ いずぬまのうさん だいひょうとりしまりやくかいちょう 有限会社伊豆沼農産（代表取締役会長 いとう ひでお 伊藤 秀雄）

○所在地 宮城県 とめし 登米市

○むらづくりの背景・経緯

昭和63年に創業した「有限会社伊豆沼農産」は、平成元年に法人化し、米・豚の生産に加え食肉加工、地域農産物の販売からレストラン事業等、6次産業化に取り組んでいる。法人を通じて様々な事業に取り組んでおり、地域住民と共に農村の「場」で生産した「もの」と、農村で暮らす人たちの「こころ」を組み合わせ、物語性豊かな商品とサービスを提供する「農村産業」の構築に取り組んでいる。

○むらづくりの内容

（１）農業生産面

平成12年に地域の農業者に声がけし「伊豆沼農産直売会」を立ち上げ、現在89名の会員が直売所「くんぺる」に農産物を提供しており、地域農業者の所得向上に貢献するとともに、レストラン体験施設等を拡大し、都市住民等との交流にも取り組んでいる。



直売所「くんぺる」

（２）生活・環境整備面

法人がある新田地区周辺の豊かな資源を調査研究し、新たな価値を創造するための事業や地域の環境保全、子供の健全育成等の事業を行い、地域に住むすべての人が自信と誇りをもって地域づくりを進めるため「新田あるものさがしの会」を設立し、多くの地域住民が参加し話し合う「しゃべり場倶楽部」は、これまで120回を超える取組となっている。



新田食の文化祭

また、法人を事務局に、地域コミュニティー推進協議会や土地改良区、商店会等で組織している「新田地区活性化協議会」では、地域の家庭料理を一堂に集めた「新田食の文化祭」を開催し、各家庭に伝わる料理をレシピ本にまとめ紹介している。レシピ本に紹介されたメニューは、民家の軒先で休憩しレシピ本の料理が味わえる体験ツアー「風土フットパス」に組み込み、地域外の住民との交流と農村の再発見の場として活用されており、農業生産だけでなく地域の文化・伝承を含め、地域資源を活用した交流人口拡大につながる取組が行われている。



体験ツアー「風土フットパス」